

## 発表番号 2

## 初任者教師向けの火災時の初動対応アニメーション教材の開発と学習効果の評価

○西尾幸一郎 山口大学教育学部  
黒光貴峰 鹿児島大学教育学部

## 1 はじめに

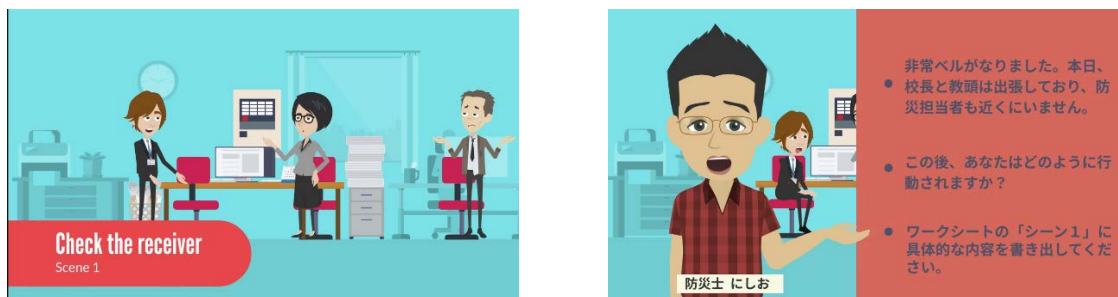
新学習指導要領では、最近の大規模災害を反映して教科横断型防災教育の重要性が言われている。その中で、家庭科においては、防災等の安全や環境に配慮した住生活とまちづくりなどに関する理解期待されている。一方で、全国の家家庭科教員を対象とした防災・災害意識調査（小林ら,2019）では、防災等に関する授業の実施状況は低いことが明らかになっており、その背景には、教具・教材の不足や、教員の知識・意識の不足、指導への自信のなさ、などが関係していると考えられている。そこで、筆者らは、初任者教師の防災に関する知識や意識を向上させることを目的に、学校でのさまざまな災害事象を模擬体験させ、災害発生時にどのような初動対応をおこなうべきかを考えさせるアニメーション教材をいくつか開発した。本研究では、火災時の初動対応シミュレーションを実施し、その効果を検証した。

## 2 方法

対象は、Y 大学教育学部の学生 49 名である。初等科家庭（2 年次）の授業終了時に開発教材を用いた火災時の初動対応シミュレーションを実施し、場面ごとに児童生徒の安全を守るために教員としてどのように行動すべきかを考えさせた。学習後に自分の避難行動に関する自己評価（9 項目 10 点満点）と感想を問うアンケートを実施した（2023 年 7 月下旬）。

## 3 結果

各評価項目について、7 点以上とした者の割合をみると、安全確認（77.4%）や安全な避難行動（70.0%）、火災の周知（65.3%）に関する評価は高くなり、物品の持ち出し（26.5%）や初期消火・排煙（30.6%）、不測の事態への対応（36.7%）などの評価は低くなった。このことには、学生がこれまでの避難訓練や防災教育において、教師側の視点や、具体的な初動対応の仕方などについてほとんど学んでこなかったことが関係していると考えられる。また、模擬体験の感想を聞いたところ、98% が火災時の状況をイメージできたと回答しているが、そのほとんどが「不安に思った」と感じている。不安感を払しょくするためにも、具体的な対応技術に関する学習機会を充実させる必要があると考え



1. シーン 1 では、非常ベルが鳴ってから確認に向かうまでの状況を取り扱っている
2. 場面ごとに自分が教師としてすべき行動を記述する。その後、アニメーションを見て行動を確認する

図 1 開発教材 Fire Drill の紹介